

(財)女性のためのアジア平和国民基金

第69回理事会

平成15年3月

2003.3.9. J.T.

Yayori Matsui's legacy lives on — as intended

MEDIA MIX

PHILIP BRASOR

Last weekend, a memorial gathering was held in Waseda for Yayori Matsui, the former Asahi Shimbun reporter and women's rights advocate who died in December from liver cancer at the age of 68. A proper funeral service had been held two months earlier at the Shibuya church founded by Matsui's minister father.

The purpose of the Waseda event, however, was to look forward as well as backward.

That's because Matsui's work continues. Throughout her 33-year career in journalism, she always tried to cover environmental and women's issues for the newspaper, though her editors would have preferred she didn't. Following her retirement in 1984, Matsui founded the Asia-Japan Women's Resource Center, and in 2000, she and the Women Against Violence in War Network Afghanistan, a mock tribunal in Tokyo on crimes committed by the Japanese Imperial Army against sex slaves during the Pacific War. The tribunal featured testimony from former sex-slaves and the participation of international judges. The ver-

dict found Emperor Showa guilty of war crimes, but by that point just the idea of the trial had invited the wrath of right-wing groups, who demonstrated at the venue and made threats.

As a reporter, Matsui was acutely aware that such an event meant nothing without the media's involvement, and later, when NHK changed the editorial track of its coverage of the tribunal, she sued the public broadcaster for breach of trust. Matsui and her supporters accused NHK of watering down its report due to pressure from rightwing groups.

That suit is still pending, but Matsui wanted it to continue even after her death. Another of her legacies is a proposed museum about sex slavery and violence against women. According to a short film that documented the last two months of Matsui's life right up to her death and which was screened at the memorial, she came up with the idea after she first fell ill while in Afghanistan in October.

Whatever she felt she accomplished during her life was meant to continue after it. By the same token, people who didn't like her and what she stood for continue to attack her even after death. One of these attacks appeared in volume 43 of Takarajima magazine's "Real" series of essay collections, published in early February. The title, "Maru ni miru baka onna," can be trans-

lated as "Exceptionally Stupid Women," a purposely provocative phrase that's how for herself, as if she were planning to take it with her. He doesn't mention the museum. Similarly, the mock tribunal was nothing more than a "witch hunt" that allowed Matsui to become famous.

Many of the targets are easy (Dewi Sukarno, Sachio Nomura) and some of the essays make valid points, but as the title suggests, the collection's purpose is to focus on women in the public eye primarily because they are women and therefore the writers — 16 men and one woman — were commissioned specifically for their negative feelings about their subjects.

Takashi Nakamiya, who writes about Matsui, is a self-proclaimed "leftist" and "watcher," which is another way of saying "rightwing crank." Only a crank would write that he "prays that God takes this sinful woman (Matsui) before her suit with NHK comes to trial," a sentence that would seem to indicate it was written before her death. Elsewhere in the piece, Nakamiya indicates that he was aware of Matsui's terminal illness and even manages to use it against her.

The Asahi Shimbun, he writes, ran a big article about Matsui when she announced she was dying, thus giving her a big present.

Nakamiya's contention is that the motivations for everything Matsui did were ego-driven and money-oriented. He implies that the ¥1.5 million she collected from supporters following the announce-

ment of her cancer diagnosis was some how for herself, as if she were planning to take it with her. He doesn't mention the museum. Similarly, the mock tribunal was nothing more than a "witch hunt" that allowed Matsui to become famous.

The writer doesn't bother to address any of the issues that Matsui advocated but simply dismisses them with curt references to leftwing fanaticism. Fanning current resentments, he claims that the tribunal was "a comedy" to entertain North Korea, which, in Nakamiya's view, is tacitly manipulating all expressions of liberal activism in Japan.

Takarajima is a notorious, muckraking publication, but Nakamiya's commentary is too sloppily rabid to be honored with charges of slander. I imagine even Matsui's supporters will not take him seriously enough to respond, but, in a way, that's exactly the point. Nakamiya knows that the worst thing he could do to Matsui and her legacy is not take them seriously. He characterizes Matsui as a self-centered harpie obsessed with leftwing causes, thus automatically reducing those causes to jokes without actually discussing them.

By extension, the entire collection of essays is circumscribed by a belief that the subjects are not to be taken at face value. They are merely women, who are, according to the tenor of the essays, exceptions to



HARD HITTER — The late journalist Yayori Matsui speaks at a mock tribunal in Tokyo that found Emperor Showa guilty of war crimes. SATOKO KAWASAKI PHOTO

the rule, the rule being men. This way of thinking still informs a great deal of media discourse, and not just in Japan.

In the film shown at the memorial, this point was made clear by a comment from a woman who is now a reporter at the Asahi Shimbun. Female journalists

are still rare. When she was hired, a senior editor told her, jokingly, "Please don't become another Yayori Matsui."

meaning, please don't be a pain in the neck. The woman said that would be impossible, because "there is only one Yayori Matsui."

本紙「対日弾七ミナー」報道をめぐって

Gワシントン大教授 モチノキ氏ら反論

本紙「対日弾七ミナー」の報道が、Gワシントン大教授のモチノキ氏らから反論を招いた。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。

幅広い立場の意見反映

本紙の「対日弾七ミナー」の報道は、幅広い立場の意見が反映されている。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。

人選 構成で偏り明白

本紙の「対日弾七ミナー」の報道は、人選の構成で偏りがあることが明らかになった。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。

初期段階でのみ評価尚早

本紙の「対日弾七ミナー」の報道は、初期段階でのみ評価が早すぎることが指摘されている。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。モチノキ氏は、本紙の報道は「日本の歴史を歪曲し、日本の国際的地位を損なう」として、本紙の報道を強く批判した。

ワシントン 古森義久

「国連安保理」 有識者の意見

緒方 貞子

前国連難民高等弁務官

国連安全保障理事会での今回の深刻な分裂は、このところ、米国が多国間条約に参加しない例が増えていることなどへの国際社会の反感も底流にある。これを再構築するにはしばらく時間がかかるだろう。

国連査察制度にも問題を残した。進行中の査察を中断する前例を作ってしまうことで、制度の権威に影響が出るのは避けられない。一方、今回、意見の対立とは何か、それをどう調整するべきなのか、などについて真剣に議論されたことは無駄ではない。イラクの

期待に貢献する日本の支援と復興

武装解除と南国の政権の民主化という最終目標では各国が一致したが、それに向けての手段でいろいろな案が出された。

米国は、こういう形で武力行使する以上、復興も自分で主導する覚悟があるだろう。ただ国連という組織の中で、安保理と復興支援を担当する部署は別。援助の現場で働く国連難民高等弁務官事務所、国連児童基金、世界食糧計画などは、安保理が動かなくとも、現場で活躍することが可能だということも証明できる。復興支援での実績がある日本の貢献も期待される。

(談) (ワシントン 大内 佐紀)

横田 洋三

中央大学教授(国際法)

米国が対イラク攻撃に踏み切る真の目的は、将来のテロを未然に防ぐことだ。

テロの脅威は、現在の国連では対応できない。米国は勇み足だが、それに対応しようとしている。米国批判で済ませず、きちんと議論する必要がある。国連安保理での新決議なしの武力行使は国連の権威を失墜させるとして、世界中で米国を非難する声が上がっている。しかし、米国が安保理で無理やり決めた賛成を集め、フランスなどに賛成させて新決議を通し、たれば、もっと深刻な事態になっていた。新決議というお墨付きを与えた場合、国連が戦争をおおったと誤解され、国連が世界中で行っている平和維持活動や開発援助までテロの対象になりかねなかった。

懸念に加速する低下の地位の国連

常任理事国に拒否権を与えられている理由は、大國の意見が割れている場合、国連が動いてはいけないということの意味しているのだと思う。

武力行使という重要な問題なので今回は注目されたが、米国は過去にも分担金の滞納、国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)からの脱退など、国連を軽視してきた。新決議抜きで武力行使は、国連の地位低下を加速させる懸念もある。

(談) (国際部 平本 秀樹)

レイ・コールドウェル

元米國務次官補代理

国連憲章は個別的自衛権と集団的自衛権を認めている。それがイラク攻撃正当化の理屈として援用されると思うが、一方でイラクから攻撃を受けていない以上、米国は自衛権を発動できないとの主張もある。重要なのは、この憲章をどう理解するかではなく、憲章制定時にどんな意図が込められていたかという点だ。

「先制攻撃」が将来の国際情勢にどんな影響を与えるかは、攻撃がどのような形で行われるかにもよる。例えば北朝鮮の行動を慎重

選択なかった以外軍事行動

に注意深くさせるかも知れないし、逆に過剰反応を誘うかも知れない。短期で死者の少ない勝利なら、この戦いにおのずから正当性を与えるだろう。

フランスが米国に反対し続けたのは、石油利権だけでなく、中東戦略、欧州連合内での主導権確保など、様々な要素が働いた結果だ。国連追求は当然だが、フランスは行き過ぎた。決議案撤回という事態は、米外交の失敗とも見えよう。確かに、米国が軍事介入しないと言えは国際社会の分裂は解消できたかも知れない。だが、その場合も、何か手立てを講じようにも軍事行動以外の選択肢がないと感じる結果になったはずだ。

(談) (ワシントン 伊藤 俊行)

男 女 共 同
参 画 条 例

表現の自由侵害も

95市町村 性差否定と混同多く

全國九十五市町村が定めてゐる男女共同参画社会の推進条例の中に、男の自由、この報道の自由、この異なるとした政治的見解から免脱した条例が自立つばかり、男女共同参画の推進状況によって例の多いことが、二十五

人々参加資格を制限する規定もあつた。表現の自由などには抵触する恐れがあるのは、固定的な性別役割分担を連想させる表現を行わないよう努めなければならぬ、などとすることは、全国一千五を超える自治体で同様の規定がみられるが、だれがどう判断するかはあいまいだ。

理念を拡大解釈
百地章・日大教授（憲
法）の話 「男女の固定
的役割を『運想させる』
のもいけないというのは
男女共同参画社会基本法
の理念の拡大解釈であ
り、表現の自由を侵害す
る恐れがある。また表現
の自由を制限する場合に
主観的すぎ、これに基づ
く規制などは絶対に許さ
れない。さらに規制対象
に民間の新聞や雑誌、ポ
スターなども含めている
のは明らかに表現の自由
の侵害と思われる。ここ
までくれば営業狩り、表
現狩りではないか」

一方、山口県宇部市や岐阜県高山市などの条例は「男らしさ女らしさを一方向的に否定することなく男女の特性を認め合う」立場をとっている。こうした文富は都道府県では茨城、東京、大阪、宮城、広島各都府県でも盛り込まれている。

(29面に関連記事)

規制の対象は「広告、ポスターなど公衆に表示するすべての情報」（水戸市）、「公に発信しようとする情報」（千葉県市川市）、「あらゆる情
報」（三重県桑名市）など。性別役割分担を直接表現したものでなく、「連想させる」ものについても「何人も行っ
てはならない」としてはならないなど定めており、出版、文学、広告などの表現活動の自由を保障した憲法二条との
整合性に疑問が残る。また男女共同参画社会について「ジェンダーフリーの実現に努める」（福島市）と規定し、「ジェンダーフリー社会を目指してはいない」（内閣府の坂東眞理子男
女共同参画局長）と真向から食い違つた条例も。島根県出雲市では、「男だから」「女だから」といったジェンダーではなく、「と男らしさや女らしさを否定。市川市では苦情処理担当者らに「ジ
ェンダーを解消する研修を行わなければならない」と明記している。さ
らに福岡県福岡市では公
共事業の入札希望企業に
社内男女共同参画推進
状況の届け出を義務付
け、中絶に一定の制約を
設けた母体保護法や刑法
（堕胎罪）との矛盾が指
摘されるリプロダクティ
ブライツ（性の自己決定
権）を規定した自治体も
名古屋や大阪市、札幌
市など四十を超えてい
る。

男女共同参画条例 行き過ぎに「待った」

不明瞭な表現規制、家事を金銭で評価

水戸市長ら参考人招致要請

衆議院議員 山谷 官房長官が調査約束

即ち、同様の男女共同参画法例に表現の自由の侵害や中絶容認などもこれら相違がある問題が、千七百の衆院新議員委員会第1分科会で取り上げられ、保守新党の山登り子氏は岡田広一、水市長と石田正夫、岡山県新党市長を要請人招致するよう委員会求めた。福田麻大副委員長（男女共同参画担当相）も「男女共同参画が逸脱していないか、觀察したい」と全国の真実調査を約束した。

とを履着する恐れがある例として、新見市の条例が禁止行為として「新聞・雑誌・ポスター等により、情勢を表示するすべての場合は、固定的な性別役割分担、女性に対する暴力及び性的欺瞞心を助長し、又は連想させる表現」を規定していることを挙げ、「連想してもいけない」とは何を意味し、何を意図しているのか」となした。

米田雄三内閣府副大臣は「同一く固定的な性別役割分担が判断するのだから、表現の自由の抑圧にならぬよう相当な注意が必要だ」と疑問を表明した。

山谷氏はさらに、水戸市の条例が新見市と同様に「表現」の規定に加え「事実力加害行為、育児、介護等、従来

女性に於ては、大體皆夫に依つて生活するものが多いといふ。これを以て、**女性に對し、必要に応じて、**経済的評価を与へる」として、家族生活を金銭的に価値として認めていることを批判、両市長の招致を委員会に要請した。

福岡市房務長官は「男女共同参画社会基本法が、このように定著している。」「福岡県福岡市の条例が、公共事業の入札希望に社内の男女共同参画推進状況の届け出を義務付けていることについては、要注の決定要件なら問題だ」との認識を表明し

苦情処理委に強い権限

申し立ててきた市民批判

千代田が興業会に提出していた男女共同参画促進条例案が、二十七日の県議会総務委員会で廃案と決まった。同条例案は過激な内容を旨として批判の声が上がっていた。草野睦子知事が「日本一」と自負した条例案の趣意は、全面で修正を要する。条例制定の阻止は、修正を要する。条例制定の阻止は、修正を要する。

「堂本案」廃案に

議中の男女立憲参事基本
各例案に、男女平等に関
する苦情処理機関に強い
権限を与える旨の規定
があり、区民が此判の
案は三月三日の本会議で
採決される。

坂道区の案例案は「男
女共同参事」とはなく、
男女立憲参事（の名称を
使用）、男女平等参事
社会の形成を阻害すると
認められる事項」などに
ついて苦情処理委員会が
是正なを勧告できると
しているが、委員会の判

断には苦情の申し立ては
できない。

男女共同参事案例に基
づく苦情処理機関のあり
方をめぐっては各地で議
論を進めている。

埼玉県苦情処理委員会
は、公立の男子高五校と
女子高十二校を共学化す
るよう県教委に勧告。牛
徒やPTAなどとの間で大
規模な反対運動が起きそ
うである。また愛媛県ではミ
スコンテストへの県の間
与を中止するよう助官が有
り、県は後援や賛助資金
派遣を取りやめる方針

脱セクハラパソコンで指南

[illegible]

8. 割修得なる男女平等免許皆伝

自分の危険度を知り、関連法や判例など総合学習



セクハラ防止の自己学習用ソフトを作った半瀬五蔵さん
 国から人材育成技術研究所のスタッフが東京・銀座で

独学ソフト登場

[illegible]

ジェンダーチェック

「正しい」と思うものには①「間違っている」と思うものには②を

①求人情報誌で女子専業の欄にセックスロラーの求人広告を掲載する

②着崩れなど危険を伴う仕事に女性に向かない

③新人の研修期間が総合職と一緒に職で異なってもよいと思う

④女性営業職が2割しかない会社で、営業職の欠員を補充するために、女性の力を募集しても問題はない

⑤男だけの寮に女性を入れると、いわれでも安全を確保できない

⑥妊娠中の女性労働者から保護措置を受けたいとの申し出があったので、年休を取って行くよう指導した

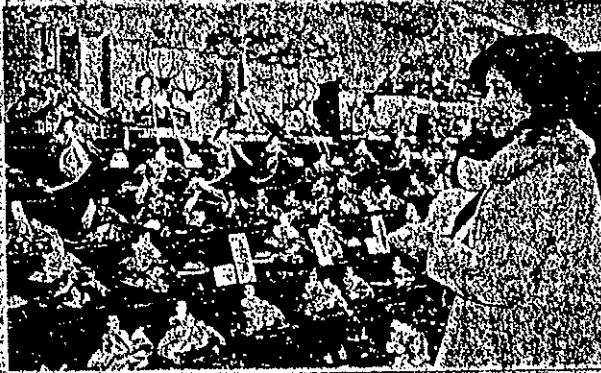
(解答) ①×セルズの研究対象は女性のみに限定している
 のは問題②×現在多くの女性たちが労働界を担っている
 脱税によって研修の内容や期間が異なるのは当然④⑤男
 女や待遇の均等を確保する上で、支援にならなくては
 ならないため、事業主は女性雇用の措置を取って当然
 ではない。厚生省は全雇用者数に占める女性比率4割を基準
 としている⑥×施設を改善して女性に寮を提供することが必
 要だと法に明記⑦×雇用者は休日を与えなければならない

セクハラ判例チェック

大の詐欺事例の中の①が、
 ②の盲動で、判決でセク
 ラーのたとえで認定され、
 ものに○、認定されなかつ
 た店員もの×を、
 広告代理店で男性会長が
 女性社員に対し、勤務時間
 中に、②、2人で食卓に行
 き、②、一緒に温泉に行き
 ③、「あなたには関係を結
 ぶべきだが必要だ」④「私は
 好きな人にはのめりこみさ
 らずと述べて、性的関係を結
 ぶました。また、⑤入浴時
 中の女性社員に対して、手
 さえついでキスを全行い、
 胸に触るなどの、世つ行
 る行為、⑥過剰な無言の
 行為、⑦ドライブに連れ出し
 の車中に強引にキスをし、
 ⑧ホテルに誘ったります

(解答) 全部○。校長が「同」としての地位を利用して女性社員に性的関係を求めているので、どんなに軽く見える発言であってもセクハラ行為にあたる。

女の子は女の子らしく育てよう



「女の子は女の子らしく育てよう」という言葉は、昔から親から子供にかけられてきた。でも、その言葉の意味は、時代によって変わってきた。昔は、女の子は「おとなしく、静かであること」が求められていた。でも、今は、女の子は「自分らしく、個性を磨くこと」が求められている。女の子は、女の子らしく育てよう。それは、彼女が自分らしく生き、夢を叶えるための第一歩である。

母親が手本を示し その上で個性磨け

幸せ願う伝統文化

女の子の幸せな成長を願う伝統文化。それは、母親の手本を示し、その上で個性を磨くこと。母親は、女の子の人生の最初の先生である。母親が、自分らしく生き、夢を叶える姿を示すことで、女の子は、自分らしく生き、夢を叶えることができる。

「脳に性差」は科学的常識

「脳に性差」は科学的常識。これは、脳科学の分野で、男女の脳の違いが明らかになってきたことを指している。男女の脳は、構造や機能において違いがある。これは、男女の個性や能力の違いの基盤となっている。この科学的常識を踏まえ、女の子は、自分らしく育てよう。

家族再興を目指す

「家族再興を目指す」というテーマは、近年の社会問題の一つである。家族の崩壊や、親子関係の悪化など、多くの問題が生じている。この問題を解決するためには、家族の再興を目指す必要がある。家族は、子供にとっての居場所である。家族を再興することで、子供は、健全な成長を遂げることができる。

2003. 3. 3. 産経

主張

男女共同参画

堂本案の廃案を評価する

全国の男女共同参画条例が、性教育の促進（十七条）など、表現の自由侵害や中絶容認につながる規定が見つかると、問題が指摘される中で、過激な部分を削除、修正した独自の条例も、基本的なところから、条例案を提出し、県議会でも議論された。県議会が廃案になった。結局、双方が廃案となり、統一地方選、行き過ぎた条例制定の流れに、後に議論は仕切り直しとなったが、堂本案の廃止めがけられたものと評価すべき。本県政の行き過ぎを是正しようとした。自民党県連の努力を評価した。

千葉県が議会に提出した男女共同参画促進条例案は、堂本勝子知事の肝、同参画条例が問題になり、保守新党のひで、国の男女共同参画社会基本法作、山合入りの議員は水戸市や岡山県新見、成にかかわった大沢真理、東大教授ら、市の条例が男女の固定的な役割分担を、条例専門部会委員に招いて策定を、否定するだけでなく、それを「連想させ、基本知事が「日本一」と、自負、せる表現「まで禁止している点についていた。だが、その条例案には、子、で、言論、表現の自由を侵害する恐れ、供にまで「連想、連想ない」の自由、があることを指摘した。これらの問題、（性の自己決定権）を教えるという、を抱えた条例が制定された自治体の首

長は、国会の参事人招致に心し、経緯を説明する責任がある。

男女が互いの違いを認め、それぞれ役割を十分に発揮するという意味での男女共同参画は必要である。だが、男らしさや女らしさまで否定するジェンダーフリー（性差否定）教育を奨励し、それに少しでも反した表現を禁止しようという条例は、憲法違反の疑いがある。

きょう三日は桃の節句。江戸、元禄時代に庶民の生活が豊かになったことに伴い、それまで労働力とだけ見なされがたかった女の子の健康を願い、町人や下級武士の家でも、競ってお雛さまを飾るようになった。地方自治体に浸透している過激なフェミニズムは、こうした日本の伝統行事にも目くじらを立てるが、そんな思想にたわらず、女の子は女らしく育ってほしい。

2003. 3. 5. 星期二

秋田県 使用見合わせ

パンフなどの「シエンターフリー」

秋田県、使用見合わせ

自治体の男女共同参画推進法（シエンターフリー）などについて、秋田県は、今後、使用を見合わせることを決定した。県民の間からは、男女共同参画社会は、面的に男性にむく仕事、女性にむく仕事を全面否定するのでは、と、批判されている。秋田県は、男女共同参画推進法（シエンターフリー）などについて、今後、使用を見合わせることを決定した。県民の間からは、男女共同参画社会は、面的に男性にむく仕事、女性にむく仕事を全面否定するのでは、と、批判されている。秋田県は、男女共同参画推進法（シエンターフリー）などについて、今後、使用を見合わせることを決定した。県民の間からは、男女共同参画社会は、面的に男性にむく仕事、女性にむく仕事を全面否定するのでは、と、批判されている。

あり、誤解を招く表現は使わないことにしたと
している。

2003.3.7. 読売(夕)

暴力を振るう夫から逃れ、
出ていく生活に苦悩する
女性たち。DV(配偶者
オレックス)の被害者
を救う。栃木県は四月
から、二十万円を限度に無
担保の無利子のローンを
貸出。逃走資金として
当面の生活費と住居資金に
してもいい。厚生労働
省は全面的にバック
アップ。試みは注目し
てゐる。

離婚訴訟や印鑑証明は
不要。原則三年間で返済
してもいい。資金は、県と
協力して取り組む県社会福
祉協議会が福祉ボランテ
ア支援のたの便で、基
金の支出は総額はあつて
ない。当初は年間百
万円ほどを予想している。

DV被害者に 逃走資金

女性に生じた相談施設な
で駆け込んだ妻が想定さ
れてゐる。それまでも、夫
の下を逃げ出しながら、生
活費に困つて戻らざるを得
ないケースは多く、被害が
広がる原因となつていた。
DV被害者であれば、男性
にも認める。

DV被害者の一時保護な
をやる民間団体「女性の
生活支援センター」の大
本拠地代表は「生活保護に
照らすよりも、本来の意味で
女性の自立を支援すること
になる」と評価している。

**最高20万
無利子で
貸し付け**

栃木県

[illegible]

ミヒル・エル・ムル(38)は昨年1月、行政摘発によつて、寮と子とを共に使んでいた自宅から追い出され、妻が夫に殴られたと主張し、警察に訴えたのだ。

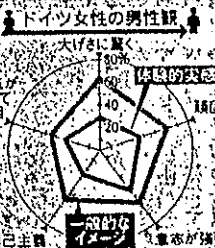
夫「加害者」
固定觀念に盲点

醫者で、一以六四の義が明
 瞭だとはいへない。それによ
 り、もし五が權力を握るこ
 とになると、醫者は、

各県ありながら、統計はなし。○家庭内暴力
（とておきこえる）とM氏「青年問題」がベリリ
高いたところ。○北東部の市警第七管区
にDVの二面性。半閉じ受理した件数のうち上
加減者の28%は女性

M氏のケースは、DVに

夫「加害者」
固定観念に盲点



に取られた版に附しても、暴力の強弱を問はず尋
「ええたしても、面目を失ふ門家もある。ペルリンの家
「嘲笑の對象にさえない。眞問題コサルシントベ
りかねない。從つて我輩は各々でテールル氏によ
性が警察などに斯る外へとは、被害者の母性は、幼
父は限られてゐるのである。少小期に母親が暴力を受け
た後は善悪になりません」

男は又答へた。「而してよ
男は又答へた。「而してよ
男は又答へた。「而してよ

「肉体的暴力」に限らず、海外の研究報告をもとに、
「間接暴力」を取り調査した人が多いという。
「肉体的暴力」に限らず、海外の研究報告をもとに、
「間接暴力」を取り調査した人が多いという。
「肉体的暴力」に限らず、海外の研究報告をもとに、
「間接暴力」を取り調査した人が多いという。

「妻が乱暴?ありえない」 ■ 男性の訴えに冷たい行政

北歐に於て最も進行を現
れ、彼國に於ては、夫など
の權力を握つた女性も取
締る。女性の数は六軒
（投票力計三三〇）といふ
ハルトが四十百ある。テ
イル氏は、ベルリンに國
内初の「獨性の黨」を組織
するため奔走してゐるが、
選料政府や市團の反応は
冷たいといふ。（ベルリン
・新聞 敬字寫也）

女性の社会進出で男女の役割分担が替わる中、女性政策は次々に打ち出され、年金などの社会保障制度も、女性のために改定されてきた。ただ、男性については、古い男意識が当てはめら

ウェストヴァーレン州の例を挙げて、「對國力保護法は實に成果を上げてゐる」と評語。今後には肉體の精進をするという観点から、抵抗する力のない女性にセックスを強要した場合には、嚴罰に処せられるようにしたい、と云ふ。

や、父母間のDVの目撃で、主従の人間関係しか学べなかった。虐待被害者が加害者になってしまった「暴力の連鎖」だ。

JUSTのプログラムでは、どんな時に怒りが爆発しそうになったか記す「怒り日記」を付けるなどして、加害者に成育歴を含めた原因の自覚や自己認識の変化を促す。

斎藤さんは「DVは、人間関係のバイオレンス・アディクション（暴力依存）」ともいえる。医療的に見ると、アルコール依存の治療に使う手法を応用できるのではないかと指摘する。

しかし、ほとんどの加害者は、自分が加害者であるという自覚を持ってないのが現状。「DV防止法で保護命令を発せられた人は、治療プログラムを受けることを条件にして、週ごとにソーシャルワーカーとのチェックを義務づけるといった制度にできないか。六カ月間の接近禁止の期間も一年ぐらいい延ばしてほしい」と話している。

前橋市

中絶容認を削除

男女共同参画推進条例案
世論定まってい

前橋市は二月五日、三月議会に提出する「男女共同参画推進条例案」を
発表した。後府段階で妊娠・出産の判断を女性に委ねる「性と生殖に関する
権利」(セクシュアル・ライツ)が盛り込まれていたが、市民から
「中絶容認」につながると批判が止まり、条例案から削除された。前橋市
は「世論が十分に定まっていなかったことを理由に棄れている」。

「性と生殖に関する権利」や市議会から買入が権利を条文に盛り込
れなかった。当初、「条例の基 本論が統出。生涯にわたるものは見送った」
本格的な方となる「基 礎的な女性の健康支援策」(前橋市は「権利の重要
本理念」に盛り込まれて「セクシュアル・ヘルス」性は認識しているが、条
例に盛り込むのはさむく見を聞く「セクシュアル」)として記述を残した。今後、国レベルの議論や判断を見守る考えを示した。

また、市民からは男女の性差を尊重する表現や家族の価値について盛り込むべきだとする意見もあつたが、条例に明記されなかった。

「性と生殖に関する権利」は女性が妊娠・中絶などを主体的に選択することを権利として認める

概念。平成六年の国際人口会議で提唱されたが「中絶容認につながる」として反対論が強い。